
ただの一般人の俺が学園都市で学校のエース！？

髪は青かな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ただの一般人の俺が学園都市で学校のエース！？

【Nコード】

N3022Y

【作者名】

髪は青かな

【あらすじ】

主人公となる矢上才子は、学園都市外のただの平凡な街に住んでるただの高校生であった。しかしある日、学園都市の人間となる。学園都市へと入った矢上才子はなぜか天才と言われ、学校のエースとなった。エースとなった矢上は、色々なトラブルに巻き込まれる。

作中に出てくる学校名およびキャラクター名は原作には一切関係ありません。

1話1話は少ない場合があります。（というか少ないほうが圧倒

的
です
)

1話1000文字前後になります。

1 - (1) 一般人

学園都市生活1日目

「おーきーろって」

友達に起こされる。まあ全寮制の学校のため、同居人という事にもなるかな。学校の支度を済ませると、朝食へとつく。

「やっぱりうまいなあ・・・」

その俺の友達、高也（性不明）は保健体育と家庭科だけは完璧なのだよ。裁縫も料理も得意なら、裁縫も得意。学校内では高也にボタンをつけてもらうと、一生取れないという都市伝説のようなもので生まれた。ただし！他はクソつたれなのだよ。

なんてことを話している場合じゃない。学校に行かねば。

「行くぞ。高也」

「ふえええい。あれ？PCから黒煙があっ！」

ふー・・・おまけに機械音痴ときたよ。まったくもって困ってしまった。

「てかさそれ俺のPCじゃん！で、データがああああ」

もう朝から最悪だよ。明日から休みでネットゲやるうとしてたのに・・・

。。もういいや。学校行こう。

。。。。。。あれ？景色が・・・もう一度ドアを開け直そう。

。。。。。。あれ？あれええええええええ。。。。。。

明らかに文化レベルが違う。飛行船にモニターが付いて飛んでるし。てか学生ばっかじゃん。この少子化の時代にここまでの学生が集まるものかね。んまあいいや。とりま、GPS使って学校行こう。

「行くぞ。たか・・・っていねーし！」

あいつ方向音痴だからなあ。たぶん迷ってるなあ。ま、いいか。

道を間違えないようにしっかりと学校へと向かった。高也は案の定迷ってるようだ(笑)

「転校生を紹介します。矢上才子くんです。彼はなんとLEVEL 4なのですよ。わが学校の希望の光なのですよ」

LEVELってなにさ？希望の光？転校生？一体何のことでしょうか？

「すっげーLEVEL 4だって？」

「かっけー」

「エースになれるよな」

エースって何？野球なら好きだよ？ルールも知ってるよ？でも運動なんてめったにしないよ？そんな俺でもエースになれるの？

「野球経験はありませんよ？」

「何を言ってるんですか？矢上君？これから起こる学園内の戦争のですよ？」

戦争ですか？争いは好みませんよ。僕(俺)は平和主義者ですからね。ところでLEVELってなんすか？帰ったらググろう。

・・・ってPCねーじゃんか。詳しくはあるが、使えないじゃないか。まあいいとしよう。帰りに電気店でも寄って帰るとしよう。ただし請求は高也宛でな。じゃあ最新鋭のもいいかな？じゃあそうときまれば高也を探すっきゃないかな！

1 - (2) エースの境遇

学園都市生活2日目

まだ高也は帰宅しません。早くググりたいんですけど。早くPCほしいんですけど。てか高也いないと朝飯もないじゃん！というか今気付いたんだけど部屋ん中そのままなのに、外壁超きれいだから中が余計汚く感じるよ・・・掃除は高也が上手だから、きれいな方なんだが元の部屋が部屋だから、きつたなく感じる。2日目だがもとの場所と、暦は同じらしいのでいきなり休日だ。あー暇だ。暇だ。暇だ。暇だっ！もういいや。高也探しに行つてやろう。Let's go! ごめんなさい。知ってる英単語いつてみました。てか、高也のGPS使えばいいんじゃない！

ここからとんでもなく遠いじゃん。めんどくせー。お金・・・使えるのかな？

ホームがなんかかっくいいなー。お金使えたり満足満足。ってあれ？あの子って・・・同じクラスの誰だっけ？

「あ、才子くんじゃないですか。覚えてますか？私のこと」

ごめん、忘れてるよ。だって1回しか会ったことないもん。しかも一気に何人も。僕(俺)は有能じゃないのですよ？

「才子さん。これから一緒に買い物付き合つてくれませんかっ！」

まあ・・・いろいろ教えてもらえるかもしれないから・・・いいかな？

「まあ・・・いいよ」

すっげー喜んでるし。こんなに喜んでくれるとなんかうれしくなってきたな。ってかバイトどうなったんだろうか？怒られそうだなあ。くびにならないかなあ？まあいいか。

学園都市生活3日目

この日学校にて、とんでもない真実を知った。

「来週からの学園内戦争のことですが、リーダーは才子くんではないですか？」

級長が勝手なことを言ってくれちゃってる。ホントに戦争ってなんなんすか？んまあいいや。なるようになれっ！PCが借りれるところも分かったし、ググってみよう。

『学園内戦争。』

主にこちら辺の学区の学校に有り、学園内で戦争を行い優勝したクラスには欠席扱いにならない、欠席が与えられる。そりゃみんなほしいさ。使っていい戦闘方法は素手or超能力限定』

『超能力』

(略)』

らしいですが・・・超能力つかえねーし。一般人だし。LEVEL
ってそーいうことね。4じゃねーよ。もう絶望だよー。こういう時に限って高也が超能力使えるようになってるんだよなー。なんとかしないとな。作戦立てるか。PCも使えるし、ヤフー知恵袋で質問でもしますか？いやすんません。真面目に考えますよ。そうしますとも了解いたしましたーっ。ふざけてホントすんません調子乗ってました。

1 - (2) エースの境遇（後書き）

2日目の買い物は番外編にてお会いしましょう。

1 - (3) いきなりの戦争

学園都市生活8日目

何の策も浮かばないまま戦争当日を迎えた。ここから3日間の戦争が始まる。1度目のチャイムでミーティング開始。2度目で、戦争開始である。

『キーンコーンカーンコーン』

1度目のチャイムだ。

「これからミーティングを開始するっ」

俺の掛け声で皆が教卓のほうへと注目する。戦力としてはLEVEL3以下限定である。(俺は4つていう事になってるが・・・)こんな戦力では戦えそうもない。1つの戦法を除いては。

「俺たちが勝つ方法は1つ。・・・」

この方法なら・・・いけるかもしれない。そうこの方法なら。

『キーンコーンカーンコーン』

2度目のチャイムだ。

「よし。引きこもるぞー。防御系の能力者は、ドアの前に配置だあー」

そう。俺らの作戦は引きこもって、夜になったら、闇討ちという最低(?)な作戦だ。しょうがないじゃん。僕(俺)能力つかえないんですよ?それでどう戦えと?ヤフー知恵袋でもフレに馬鹿かって言われるし・・・。まあかてばいいんだよ勝てば。

「リーダー!大変です。ウチの作戦がばれて、全クラス突っ込んできましたよ?」

「乗り切れ!」

「無茶言わんでくださいよ!」

ふー絶望的だぜい。あーやばい。現有戦力残りわずかだよ。第1防衛ライン突破かー。相手にはLEVEL3が何人もいるもんね。俺

のクラスなんか1人だよ？しかも、能力は全く役にたたんし。知ってるかい？ビリのクラスは大変なコトになるんですよ。昼食9日間抜きなんですよー。全クラスが相手の今、俺らには希望は愚か、戦意すらほぼ無い。

ふー後は俺を入れて10人か・・・もうダメだっ・・・

『パリーン』

ん？窓が割れる音？もしかしてっ・・・救世主っ!？

しかし、その期待は裏切られた。ってかここ3階だよ？

「おっはよお」

高也かよおおおおおおお・・・ダメだ。もう嫌だ。少しでも期待した俺が馬鹿だった。馬鹿は馬鹿らしく散ろう。

だが現実で見た風景は違った。高也が相手を圧倒している・・・吐息で。

高也はもう見た目からして変態だから・・・。しかも超能力覚えたらしいです。この短時間で。変なところ才能があるんだよなあ・・・。こんなんで大丈夫か？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3022y/>

ただの一般人の俺が学園都市で学校のエース！？

2011年11月13日22時36分発行